

## 第十一部 イスラエルの贖いと回復

イザヤ 40 章～66 章

「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。——あなたがたの神は仰せられる——  
エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その苦役は終わり、その咎は償わ  
れている、と。そのすべての罪に代えて、二倍のものを主の手から受けている、と。」

(イザヤ 40 : 1～2)

### □ 第十一部のアウトライン

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| A) プロローグ             | 40 章 1～11 節    |
| B) イスラエルの苦難は終わる      | 40 章 12 節～48 章 |
| C) イスラエルの罪は償われている    | 49 章～57 章      |
| D) イスラエルは二倍のものを受けている | 58 章～66 章      |

### □ 「A) プロローグ」のアウトライン (イザヤ 40 章 1～11 節)

1. 預言者たちへの命令 (1～2 節)
2. 神の命令を受けた預言者たちの 5 つの声 (3～11 節)
  - (1) 荒野で叫ぶ者 (メシアの先駆者) の声 (3～5 節)
  - (2) 「叫べ」という声 (6 節 a)
  - (3) 叫んでも人々は振り向かない、ただ人は移ろい行くだけ、落胆の声 (6b～7 節)
  - (4) 落胆する者を励ます声「神の約束は必ず成就する」(8 節)
  - (5) エルサレムに良い知らせ (福音) を伝える者の声 (9～11 節)

### A) プロローグ

1. 預言者たちへの命令 (1～2 節)

1～2 節 a 「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。——あなたがたの神は仰せられる——  
エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その苦役は終わり、その咎は  
償われている、と。そのすべての罪に代えて、二倍のものを主の手から受けている、  
と。」

- 3 つの波線部について・・・「わたしの民」＝神の民、イスラエルを指す。  
「あなたがた」＝預言者たち、イザヤと彼に続く預言者たちを指す。  
「エルサレム」＝首都の名であるが、イスラエルを意味する。

- 3つの二重下線部について・・・「慰めよ、慰めよ」＝神の民にとって慰めは何かから来るか、神のことば、預言である。

「優しく語りかけよ」＝ヘブル語の意味は「聞く人の心をつかむように語れ」、「呼びかけよ」＝ヘブル語の意味は「叫べ」。9 節では「力の限り声をあげよ」と命じられる。聞く人の心をつかむように語る方法は、力の限り叫ぶことである。語る者が力の限り声をあげるときに、聞く者は励ましを受ける。しかし、注意！ 単に大声をあげることではない。力は神のことばの中にある。人の力説ではなく、神のことばを、そのとおりに（加えたり省いたりすることなく）、確信をもって語ることが大切である。

2 節 b その苦役は終わり、その咎は償われている、と。そのすべての罪に代えて、二倍のものを主の手から受けている、と。」

(1) 慰めのメッセージとして預言すべきテーマは、3つ

- ① イスラエルの苦難は終わる
- ② イスラエルの罪は償われている
- ③ イスラエルは二倍のものを受けている

(2) 預言の内容は、このあと詳しく啓示される

- ① イスラエルの苦難は終わる・・・その預言内容は、40 章 12 節～48 章に。
- ② イスラエルの罪は償われている・・・罪を償う方法は、「主のしもべ」と呼ばれるメシアが身代わりとなって苦難を受けること。その預言内容は、49～57 章に。
- ③ イスラエルは二倍のものを受けている・・・罪の罰にせよ、神からの祝福にせよ、イスラエルは他の民族より二倍のものを受ける。イスラエルは神の長子だからである。その預言内容は、58～66 章に。

(3) 以上のように、2 節は、慰めのメッセージのテーマ 3つを述べているだけでなく、40 章～66 章の 3つの区分それぞれのアウトラインを提供している。そして、3つの区分の締めくくりのことばは、共通している。神を信じない人たちがどういう状態にあり、最後にはどうなるか、という警告である。

テーマ	3つの区分	締めくくりのことば
① 苦難は終わる	40 : 12 ～48 : 22	悪しき者には平安がない (48 : 22)
② 罪は償われる	49 : 1 ～57 : 21	悪しき者には平安がない (57 : 21)
③ 二倍を受ける	58 : 1 ～66 : 24	彼らは出て行って、わたしに背いた者たちの屍を見る。そのうじ虫は死なず、その火も消えず、それはすべての肉なる者の嫌悪の的となる。(66 : 24)

## 2. 神の命令を受けた預言者たちの 5 つの声 (3～11 節)

## (1) 荒野で叫ぶ者 (メシアの先駆者) の声 (3～5 節)

3～5 節 荒野で叫ぶ者の声がする。「主の道を用意せよ。荒れ地で私たちの神のために、大路をまっすぐにせよ。すべての谷は引き上げられ、すべての山や丘は低くなる。曲がったところはまっすぐになり、険しい地は平らになる。このようにして主の栄光が現されると、すべての肉なる者がともにこれを見る。まことに主の御口が語られる。」

メシアの先駆者は、初臨では洗礼者ヨハネ、再臨では預言者エリヤ

## (2) 「叫べ」と言う声 (6 節 a)

6 節 a 「叫べ」と言う者の声がする。

## (3) 叫んでも人々は振り向かない、ただ人は移ろい行くだけ、落胆の声 (6b～7 節)

6 節 b～7 節 「何と叫びましょうか」と人は言う。「人はみな草のよう。その栄えはみな野の花のようだ。主の息吹がその上に吹くと、草はしおれ、花は散る。まことに民は草だ。」

メシアも落胆した。ゲッセマネの園で苦悶した理由のひとつ

49 : 1～4 島々よ、私に聞け。遠い国々の民よ、耳を傾けよ。

主は、生まれる前から私を召し、母の胎内にいたときから私の名を呼ばれた。

主は私の口を鋭い剣のようにし、御手の陰に私をかくまい、

私を研ぎ澄まされた矢とし、主の矢筒の中に私を隠された。

そして、私に言われた。「あなたはわたしのしもべ、イスラエルよ、

わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現す。」

しかし私は言った。「私は無駄な骨折りをして、いたずらに空しく自分の力を使い果たした。それでも、私の正しい訴えは主とともにあり、私の願いは私の神とともにある。」

- わたしのしもべ、イスラエルよ・・・「主のしもべ」、「イスラエル」は、いずれもメシアの呼称。これまでも「主の若枝」(4 : 2)、「インマヌエル」(7 : 14)、「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」(9 : 6)、「エッサイの根」(11 : 10)、「試みを経た石、堅く据えられた礎の、尊い要石」(28 : 16) など。

## (4) 落胆する者を励ます声「神の約束は必ず成就する」(8 節)

8 節 草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことは永遠に立つ。」

ゲッセマネの園で苦悶するイエスを励ましたのは、天使  
天使が伝えたメッセージは、預言のことは

ルカ 22 : 43 すると、御使いが天から現れて、イエスを力づけた。

イザヤ 49 : 5~6 今、主は言われる。ヤコブをご自分のもとに帰らせ、イスラエルをご自分のもとに集めるために、母の胎内で私をご自分のしもべとして形造った方が言われる。私は主の御目に重んじられ、私の神は私の力とされた。主は言われる。

「あなたがわたしのしもべであるのは、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのうちの残されている者たちを帰らせるという、小さなことのためだけではない。わたしはあなたを国々の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」

(5) エルサレムに良い知らせ(福音)を伝える者の声(9~11 節)・・・その成就是、大患難期前半の 3 年半、エルサレムで活動する「二人の証人」(黙 11 : 3~13)

9 節 シオンに良い知らせを伝える者よ、高い山に登れ。エルサレムに良い知らせを伝える者よ、力の限り声をあげよ。声をあげよ、恐れるな。ユダの町々に言え。「見よ、あなたがたの神を。」

イエスはメシアであり神である。再臨し、王となる

10 節 a 見よ。神である主は力をもって来られ、その御腕で統べ治める。

10 節 b 見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の御前にある。

- 「その報い」 = メシアに従わず、イスラエルに敵対する諸国民に対してはその報いとして罰を下す。「その報酬」 = メシアに従い、イスラエルに友好的な諸国民に対しては祝福を与える。

王国でのメシアと諸国民との関係

11 節 主は羊飼いのように、その群れを飼い、御腕に子羊を引き寄せ、懷に抱き、乳を飲ませる羊を優しく導く。

- その群れ・・・イスラエル民族

王国でのメシアとイスラエル民族との関係